

# UIFA JAPON NEWSLETTER

## ■主な内容

これからのUIFAに

UIFA JAPON 2003年度第11回総会開催

基調講演報告「学校建築と私」 建築家 富田玲子さん

ユニバーサルデザインを考える

「私にとってのユニバーサルデザイン」写真展の魅力

ユニバーサルデザインを考える

学校のトイレを考える

第2回 私らしく働く一地域で、組織で

男女共同参画週間展示に出席しました

役員会報告



富田玲子氏



総会風景

## これからのUIFAに

UIFA JAPON 会長 小川信子

UIFA JAPON を立ち上げて 10 年、UIFA を世界的な組織にと、ドラトゥールさんが第 1 回 UIFA の会をパリで開催してから、40 年の歳月が流れている。中原名誉会長が参加した最初を振り返ると、当時は私自身も自分の方向を見定められずに色々と考えていたときでもあった。第二次世界大戦終結後、日本女子大学を卒業して 51 年間、ひたすら建築関係の仕事や研究に携わってきて、色々と考えることの多い近頃、一冊の本を手にした。「戦場のピアニスト」\*である。息もつけずに読み通してしまった。

私達が日本の地で戦争体験をし、原爆が投下され、1945 年 8 月 15 日に終戦を迎えた日のことが思い出されてきた。しかし、ポーランドで起こった、惨憺たる破壊行為と多くのユダヤの人々の犠牲、それら民族的な戦いが、同時に行なわれていたことは、後日様々な報道で認識するようになった。今再び何のための戦いだったのかと、考えずにはいられない。

1964 年夏にイスラエルを、1975 年にワルシャワを訪問した時の胸の痛みが走馬灯のように浮かび上がってきた。「Warszawa 1945」の本を改めて手にとって、破壊されたワルシャワの町の写真を見ると、シュビルマンの本に裏付けされて当時の情景が浮き出てくる。私が訪ねた時は、ワルシャワの市街は復元されていてあまり痕跡は残っていなかったが、傷ついた人々の言葉は残っていた。

自国の文化遺産を復元し、伝承するために真摯に取り組んだエネルギーに心から敬意をあらわしたものだ。現在の私達のまわりを見廻すとき、何ができるのか見極めることは非常に難しい。でも、情報化の時代に第二次大戦の時のように世界で起きていることに無知ではいられない。このような時代に、UIFA の世界中の会員が相互連携して、再び歴史を繰り返さぬよう、力をつくさなければならないと思っている。

## UIFA JAPON 2003 年度第 11 回総会開催

6 月 28 日 (土) 13:30 から、自由学園明日館の教室「タリ阿森」において、第 11 回総会が開催された。最初に小川会長が挨拶、10 周年の節目に実施した記念事業、次の 10 年に向けて UIFA JAPON がなすべきこと、そして魅力ある会の賛同者をもっと増やしたいとの抱負を語った。

次に、役員紹介の後、議事に入った。出席者 29 名、委任状 71 名で会員 102 名に対する定足数を満たし総会は成立。小川会長を議長とし、以下の議案について審議した。

① 第 1 号議案：2002 年度の活動と収支報告  
監査報告

② 第 2 号議案：2003 年度の活動計画と予算  
いずれも原案通り可決・承認、2003 年度の活動計画案と予算案はそれぞれ活動計画と予算として実際に運用されることが決定した。最後に議事録署名人として草野、板東両氏が指名され、総会は終了した。

総会終了後、UIFA JAPON 10 周年記念事業として実施する「学校のトイレを U+I+F+A 化しよう」についての説明が行われ、この事業に会員の参加を募った。

引き続き「タリ阿森」で、象設計集団の富田玲子氏を招いての記念講演会が開催された。「学校建築と私」と題し、設計にかかわられた 3 つの小・中学校について語られた。会員外の方も参加し、立錫の余地もないほどの盛況ぶりとなった。

その後隣の教室を使って開催された懇親会は、講師富田氏や会員外の方もご参加くださり、大変にぎやかなものになった。意欲と力を感じさせる新しい会員も紹介され、明るい会の将来を予感させる懇親会となった。

(須永)

\*「戦場のピアニスト」 ウラディワフ・シュビルマン著 佐藤泰一訳 春秋社、2003 年「Warszawa 1945」 Emilia Borecka・Leonard Sempolinski 著 Panatwowe Wydawnictwo Naukowe.出版、Warszawa 1945 年

## 通常総会記念講演会

### 「学校建築と私」—建築家 富田玲子さん



宮代町笠原小学校

女性建築家として先端を走ってこられた富田玲子さんの講演。学校建築をテーマに3作品の設計の意図や具体的なプロセスについてお話いただいた。

#### 講演要旨

1971年から「象設計集団」を主宰して32年間に小学校5つ、中

学校2つ、高校1つ設計したうち、今日は3ヶ所を選んで説明します。学校とは、「生活の場」であり、「心と身体が成長する時期にどういふ空間で過ごすかが一生を決める」といっても過言ではありません。私自身の小学校の思い出として、昭和20年に入学した疎開先の木造平屋の小学校があります。お弁当の時間に先生が童話を聞かせてくれたこと、堆肥作りも都会育ちには面白かったこと、電気がないので雨の日の教室は暗かったことなどを鮮明に覚えています。小学校3年のときに転校した杉並区の小学校は木造下見張りの2階建校舎でした。ここでは、教室意外のあいまいな場所が遊び場だったこと、理科室が恐かったこと、近隣のおじさんが鉄棒をしていたことなどよく憶えています。今は、学校の教室はどこも明るく、門は閉まっています知らない人は入れません。高校ではちょうど木造校舎がコンクリートに変わった時期でした。木造の柔らかさと人間との調和がとれていたのに、コンクリートになったとたん、皆の行為がごちなくなつたように思いました。せめて手の触れるところは、木であってほしいと思います。

#### ■埼玉県の宮代町笠原小学校「はだしの学校」1982年

「足の裏の刺激は頭脳の発達につながる。草の庭にしてはだしの学校にしよう。」「平らな土地だから、小山があるとかけ上がったり降りたりできて楽しそうだ」という先生方からの提案から、全体の配置計画が決まりました。農村のはずれにある建物なので、「領域を段階的にわけ、やわらかく連続させる」ことを考え、屋敷林が点在する田園風景を残したいと思いました。いわゆるオープンスクールの形はとらずに、風と光の入る学級の空間を基本単位としました。その結果、「学校は町」「教室はすまい」「学校は思い出」という3つのキーワードが生まれました。校舎のどこからでも庭に入出入りすることができます。教室は板床ですが、中間領域はコンクリートにモルタル仕上げです。教室を「住宅」と考えて充実させることを考え、中間領域にはお金をかけませんでした。柱に標語を、教室のガラスに生徒の作品をはめ込むなど「自分の場所」ができるよう配慮しました。

#### ■広島市立矢野南小学校「屋上・田んぼのある学校」1998年

広島市街地は周囲の丘陵の裾野を上へ上へと段々状に造成しながら、くらしの場を広げてきました。その東端の安芸矢野にこの小学校があります。矢野の街のいろいろな高さの地面上のくらしと、棚田と段段畑による農業の形を反映させて、高さの異なるくらしの場をつくるこ

と、また盆状の囲みをつくることをテーマにしました。地面は生命の源、豊穡の源です。生命の躍動感、豊穡の希望、協働の喜びを子ども達に感じてもらうことが私達の夢です。床・壁には、地元産の杉材を用いています。田んぼの土の厚さは30cm、農家のベテランが田植えから収穫まで指導しています。北の光の方が良い教室になるので、南側に廊下をとっています。土地のもつ特性を表現し、子ども達が教室から外へ湧き出てくるような空間を目指しました。

#### ■多治見市立多治見中学校「プロムナードと中庭」2000年

敷地は丘陵のふもとの斜面上にあるので、高さの異なる三本の道から各レベルの校舎内の活動をみることができます。プロムナードに沿って体育館や特別教室が配置され、地域に開放されています。板デッキの中庭は街の広場のようあらゆる活動の中心です。クラスの集会、授業、会食なども行なわれ、その周囲には半戸外の回廊、テラス、階段があります。この中庭は生徒だけではなく地域のコンサートやワークショップ、オープンカフェにも使われる人気の場所になっています。教室の構成としては、二教室を一単位として間に共通目的スペースを設け、流しやベンチをつけることで「家」としての機能を持たせました。

昨年暑い日に様子を見に行つたのですが、緑が茂りまた風が通り抜けてとても涼しく、成功したと思えました。



矢野南小学校「屋上夢たんぼ」

#### 講演を聴いて

日本の風土に根ざした建築を創る象設計集団の素晴らしさは、その独創性、積層的な中間領域の扱い方、そして徹底した人間主義にあると思う。富田さんが、アメリカでShady Hill Schoolを見学し、その「家」のような教室群に共鳴したものの半戸外空間がないことに違和を感じたという話は象徴的である。富田さんは、「学校は地域の表現である。」といい、学校が良い学校なら、その街は良い町、その村は良い村だ、という。さらに、「学校は暮らしの場」であると言い切る。現代の学校は、管理と効率ばかりを求めて肝心な子ども達を押し潰しているように感じてきたので、富田さんの試みは福音に思えた。象設計集団の学校建築設計の目標は、「子ども達の身も心もものびのび・いきいきー五感に訴える空間」「ここにしかない自分達の場所ー特徴をもつさまざまな場所をつくることで、自分の居場所が生まれる」「自然とともにある一風、光、緑、水、土、虫、鳥、子どもたちがこん然となる世界」であるという。富田さんの言葉のひとつひとつに、しなやかで強靱な精神が感じられ、自然を、感性を、子どもを慈しむという基本的な主張を続けることの大切さを教えていただいた。富田さんは、こうできたらいいなと思うようなことを実現していらっしやる。当然のことを当然として主張すること。富田さんから「そのままの自然体で正しいと思うことをしたら」と励ましていただいた気がした。(田中)

## 「ユニバーサル・デザインを考える」から 新企画「学校のトイレを考える」へ

ニューズレター第38号の「ちょっと一言」のコーナーで始まった「ユニバーサルデザインを考える」シリーズは、19回連載され、会員23名の様々な意見が掲載されました。また、去る4月に名古屋で行なわれた10周年行事「私にとってのユニバーサル・デザイン写真展」には、会員40名の写真作品が集まりました。ユニバーサル・デザインという概念をより明確に把握したいという思いから始まったこの企画ですが、連載原稿と写真を小冊子にまとめるということで第一階を完了することになりました。ユニバーサルデザインの本質は、より普遍的でより美しく生活に密着したデザインにあるという輪郭が見えてきたように思います。これからは新しい企画として「学校のトイレを考える」を始めます。これは、ユニバーサルな視点から、公立小中学校のトイレを見直し改善しようというものです。会員の皆様のご意見やご協力をお願いいたします。

### 「私にとってのユニバーサルデザイン」写真展の魅力

吉田あこ

今や21世紀、かつての20世紀のマイノリティは、今ではマジョリティとして膨らみ始め、前世紀の常識は、この21世紀では非常識とまでなっていく。建築設計も平均成人のみを考えた建物では、もう過去の遺物となっていく。そして、これからは人間すべての生活面を広げ、国境を超える設計能力が必要となる。

私達女性建築家の出番と言えようか。特に、個性豊かで、物造り大好きの人々が、すでに、“私”にとってのユニバーサルデザイン”でUIFA JAPON ニューズレターの連載を飾っている。

そこで、ここ創立10年記念展には全員参加で、この写真展を開いた。ユニバーサルデザインを写真1枚で表現する。この難問を、なんと軽々と越えていくデザイナーが続出していることよ！ 驚きである。

「私にとってのユニバーサルデザイン」が、かえって発想を伸びやかにさせたのか…。風土習慣から、潜在意識から、伝統文化の沈潜から、犬との共生から、そして、結界の地から時間と空間を越えて広がる思念とこの空間のヒントがまばゆいばかりに…。

では、ちょっと、さわりを以下に紹介する。

例1 日本の風土に根ざした「掛け湯」槽を、ナーシングホームにもさりげなくつける(井出幸子)。例2 小さい個から人をつなぐ私信「魔女タイムス」の紹介(佐藤久美子)。例3 永遠に魂の安らぐ場「森の公園墓地」(小川信子)。例4 シルクロードの最果てイスタンブールの古典的商売法「アパート窓から下ろすか買い物籠」(松川淳子)。例5 前頭葉片まひの人の心のメッセージ「母が画いたカーネーション」(須永淑子)。例6 小林秀雄の機能美を物語る愛用の手作り曲線定規「ユニカーブ」(中野晶子)。例7 子どもの五感に訴える「木製玩具カラコロTree」(栗山楊子)。例8 愛犬の目線から共生の都市造りを「自然治療」(渡辺喜代美) など…。

こうした例は、物を作り出す人ならではの深い読みに溢れている。もちろん、こうしたトピック的な物だけでなく、現今のユニバーサル・デザインに対する鋭い批判、そして、正攻法で、この再構築を提案する内容も多々あり、実に楽しく含蓄がある。

ぜひ、この写真展とコラム文章をまとめた小冊子を紐といていただきたい。小さく書かれた文章も気が利いていて暗示に富む。そして、眺めながら、私ならもっとと言う「私にとっての…」の勇気が溢れてくるかも。

◇小冊子「私にとってのユニバーサルデザイン写真集」作成中。  
CD-ROMとのセットで年内に販売予定。

### ■ユニバーサルデザインを考える

#### コロナの活躍—我が家での椅子の歴史から

唐崎久子

我が家にコロナ付きの椅子がある。オフィスで使われる椅子の中でも一番簡単なものである。最初は勉強をしながら座ったまま近くのものを取れる便利な椅子として活躍した。子供が小さいころはひとりがコロナ付き椅子に乗り、もうひとりが押した。あぶなくないように勢いのつけかたを工夫し階下に響かないように畳の方がフローリングよりも音や振動が少ないことを知った。子供のささやかな遊びと学びの道具だった。

それから時は流れ同居している義母の骨粗鬆症が進み坐骨神経痛が痛む。コロナ椅子の手すりを押して手押し車にして歩くちょっとしたものを載せて運ぶ。椅子に座り手すりや柱を押して移動している。それはコロナが転がるとても便利なものだからユニバーサルデザインを創り上げる一つ一つの要素に目を向けると新たな方向が見えるのではないかと。

### ■学校のトイレを考える

#### 公立小学校・中学校のトイレをU+I+F+Aに

子供達の「居場所」が侵食されて久しい。昨今の様々な事件や、不登校の子供達の存在等、私達建築家でも放置しておけない状況にきています。

勉強や活動の目的のある空間はどちらかと言うとよく検討されてきました。それ以外の余白の時間を過ごす「場」、それぞれの年頃にあった「居場所」を、創り出せねばなりません。先日の総会の記念講演をしていただきました富田玲子さんは、学校建築の中でずっと前からこの事を具現化され、見事に子供たちの心の中に「何か」を与えてこられて来ました。

学校建築の中で、子供たちが唯一一人になれる小空間、トイレに目を向けてみましょう。公共的な空間のトイレ、例えばデパート、高速道路のパーキングエリア、道の駅など、トイレはずいぶん改善されてきましたが、学校のトイレは、予算も最低限、「水洗にだけ近代化」の域を超えず、いわば置き去りにされてきました。そこで、私達UIFAは、母として、教育者として、市民として、何よりも建築の専門家として、公立学校のトイレを改善するための推進役ができないだろうかと考えています。

変化のある特徴を持つUtility 内部空間=Interior で、素敵でFantastic、雰囲気=Atmosphereのあるものを作りたい。これがU+I+F+Aの10周年記念事業となりました。幸い、このような活動を既に続けてこられた、小林純子さんが会員になって下さいましたので、良きアドバイザーを冠して、皆様の御協力をお願いいたします。(中野)

〒102-0083 東京都千代田区麹町 2-6-5

麹町 E・C・K ビル 衛生生活構造研究所内

TEL 03-5275-7861 FAX03-5275-7866

メールアドレス uifa@l1ql.co.jp

発行 2003年8月28日

## 第2回 私らしくはたらく-地域で、組織で <組織で>公共建築の裏方

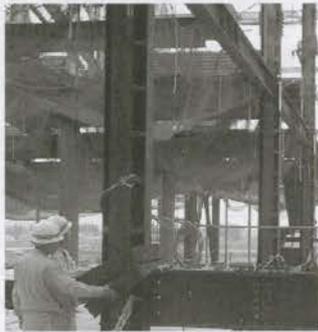
(社)公共建築協会 調査第一部 向井 愛

### ■公共建築協会(PBA)ってどんなところ?

社団法人公共建築協会のことはよく知らなくても、建築関係の皆さんなら「建築工事共通仕様書(共仕)」をご存じの方が多いはず。その共仕の編集・発行を行っているのがPBA(=Public Building Association)です。ここは国土交通省官庁営繕部所管の公益法人で、公共建築物に関する基準類等の編集発行や講習会の開催、国や地方からの建築全般に関する内容の受託業務を行っています。また、雑誌・ニュースの発行や2年に1度の公共建築賞の審査・表彰を通じて、公共建築物に関する様々な情報発信を行っているところでもあります。

私はPBAに約3年半前、プロパーとして採用されました。主に受託業務を担当する調査部に所属しています。

初めの頃は建築に関する知識も乏しく、特に施工に関しては大学ではたった2単位の授業しか受けていないうえに、建築工事現場での経験が全くない私が、これまで最も多く担当した分野が施工に関することでした。監理と管理の違いすらわからず、会議メモに「サラカン?クダカン??」と記録したのを記憶しています(ちなみにサラカン=設計者の監理、クダカン=施工者の管理)。



### ■建築施工に関わる仕事

現場に出ずとも3年も施工に関する委員会や受託業務を担当していると、それなりにいろいろなことがわかってくるのですが、最近ようやく現場に出る機会に恵まれ、行ってみると、やっぱり百聞は一見に如かずだということを感じます。最近では現場にも女性が増えてきたようですので、機会があったら積極的に現場に出られることをお勧めします。先日、欠陥施工の調査をしたのですが、施工者の技術不足や材料の品質だけでなく、設計仕様の選択も施工品質確保の重要なポイントであることを感じました。

現在編集に携わっている「IS09000s 適用工事施工管理要領」は、施工者だけでなく発注者・設計者の方にも現場の施工管理を知るうえで参考になる一冊だと思えます。この他にもPBAでは、新入社員及び学生の施工教育向けに施工マンガ(ビルディングコミックス)を発刊しており、施工知識を深めてもらおうと努めています。私も「塗装工事」を担当しており、どちらもまもなく発刊されます。

PBAの受託業務では、施工だけでなく、建築の企画・計画から設計に関する様々な調査研究を行っています。最近では環境やIT関連の業務も増えてきており、多様な知識が求められるようになってきました。日々めまぐるしく変化する建設業のなかで、忙しくも刺激的で充実した毎日を送っています。

### 男女共同参画週間展示

「私たちがつくる男女共同参画社会」に出展しました!

千代田区男女共同参画センター(MIW)は、私たちが登録団体のひとつとしていろいろな行事に利用しています。今年の男女共同参画週間の企画行事として、登録団体から展示を募集したので、パネルA2版を4枚出展しました。会員の板東みさ子さんの奮闘のおかげで、すてきな紹介パネルができました。



パネル展示風景

6月20日の展示オープニングには、団体の交流会があり、正宗副会長、山田事業担当理事、栗山会計担当役員が参加しました。各団体が自己紹介、展示パネルの紹介を行い、男女共同参画社会にむけてのメッセージパネル作成のワークショップと交流会がありました。このパネルは秋に行われるMIWの5周年記念事業の際にも展示される予定だそうです。(松川・山田)

### ■役員会報告

第3回 2003年6月17日(火)

議事: 今年度の予算案、総会役割分担、段取り、議案書の確定、NEWS LETTERの編集印刷等について今年度中に見直しを完了する。

第4回 2003年7月25日(金)

議事: MIW交流の会に代表三名が参加報告。総会総括。各部会報告。UIFA デジタル資料化「ユニバーサルデザイン」小冊子化等推進。「学校のトイレ」、座談会、見学会等企画推進。

### ■編集後記

今号より担当させて戴くことになりました。宜しくお願ひします(石川)。日差しを恋しがる青いトマト、脱魂の如く短い夏が駆け抜けそう(井出)。魅力的な女性の集まりUIFA。その相乗効果も期待したい(須永)。100万人の江戸町人文化から「落語」は育ち、なぜか1000万人都市生活者の「情」をもとらえるパワーあり(中野)。夏!豊かな感性をもつ人々に出会った。場に出会った。素晴らしい人生(渡辺)。UIFAならではの活動として、新企画「学校トイレを考える」に期待します(編集長:田中)。

ひろ  
陶庵「弘」

皿、コップ、壺等から  
自由な発想の作品まで  
好きな時間に、好きな物を!  
半日(約3時間) 2500円  
電話(03)3724-7555  
目黒区平町1-9-15 田中弘子

KIKU Architectural Office  
規矩設計室

〒352-0014 埼玉県新座市栄5-1-17

一級建築士 山田規矩子

tel & fax 048-482-1594  
home tel 048-478-5944  
e-mail: yama-kik@triron.ocn.ne.jp